

「バイ(下)」 深層水で飼育実験

産卵生態明らかに

富山で漁獲されるバイ類には、「イシバイ」とか「アズキバイ」と呼ばれる海岸近くの砂泥地に生息するものと、水深約200m以深の海底に生息するものがある。本県では、一般に後者のオオエッチュウバイ、カガバイ、ツバイ、チヂミエゾボラなど、エゾバイ科に属する深海性バイ類のことを「バイ」と呼んでいるが、標準和名で「バイ」というのは前者のことである。

富山県の貝類総漁獲量は、年間約400トン前後であるが、ほとんどが深海性バイ類で占められている。これらは、かごなわ漁業により漁獲され、主に刺身や煮物、あるいは串焼きなどにして食されている。水産試験場では、これら深海性バイ類の産卵生態を明らかにするために深層水を利用して、オオエッチュウバイを除く3種について飼育試験を実施している。

深海性バイ類の産卵は、一般に飼育水槽の壁にらん卵のう囊(中に卵が入っている袋で、一般に「海ほうずき」と呼ばれる)を産みつける。カガバイは、一年中産卵する傾向にあり、ツバイとチヂミエゾボラは夏期に産卵が集中するようである。チヂミエゾボラは同種の別個体の殻上に卵塊を付着させる性質がある。

産卵される卵囊数は、カガバイでは約80～250個、ツバイでは約70～200個、チヂミエゾボラでは約8～40個程度である。卵囊が産み付けられてから稚貝がふ化するまでの期間は、カガバイでは約3ヶ月から6ヶ月(水温1～6℃)、ツバイでは約1年2ヶ月(水温1℃)、チヂミエゾボラでは約9ヶ月間(水温1℃)程度の期間を要する。1個の卵囊から生まれる稚貝の数とその大きさは、カガバイでは、20個体程度で殻の長さ約2mm、チヂミエゾボラでは1個体で約8mmであるが、ツバイでは未確認である。

深海性バイ類の資源管理の取り組みが始まろうとしている。今後も飼育を続け、産卵生態を明らかにしていきたい。(渡辺孝之)



水槽の壁に産みつけられたカガバイの卵囊